「新環境総合計画」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

　大阪府では、「大阪21世紀の新環境総合計画」を策定し、本計画に定めた各指標・目標値についての進捗状況等を把握し、今後の計画の見直しや持続可能な環境保全活動の実現につながる施策検討の資料とする。

1. 調査（検証）項目

(1)計画指標

1. 生物多様性を認知している府民の割合
2. リサイクル製品を購入している府民の割合
3. 資源物を分別している府民の割合

　　(2)将来像「あらゆる主体が参加行動する社会のイメージ」の「府民の環境配慮行動」のうち、下記項目の実態把握

1. 地域の環境保全活動への参加
2. 環境教育・環境学習活動（座学・体験型）への参加
3. 環境行動の働きかけ
4. 調査仮説
5. 仮説1（生物多様性）生物多様性について内容を知っている人は、生物多様性に係る活動の担い手（博物館等の生物多様性関連施設や大学、NPO等）からの情報をきっかけにしている割合が高い。
6. 仮説2（リサイクル製品）リサイクル製品の購入意向を示さない人は、リサイクル製品の品質や価格に良いイメージを持っていない傾向にある。
7. 仮説3（資源物の分別）分別しないと答えた人でも、住んでいる地域の分別ルール自体は認識している。
8. 調査対象　国勢調査結果（平成27年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、18歳以上の大阪府民1,000サンプル
9. 質問項目

予備質問

ＳＣ1　年齢

ＳＣ2　性別

ＳＣ3　都道府県

ＳＣ4　居住地（市町村）

本質問　21問

【いのち共生】

Ｑ1　「生物多様性」の認知度（ＳＡ）

Ｑ2　【Ｑ1見聞きしたことがある】認知の程度（ＳＡ）

Ｑ3　生物多様性に関することで知っているもの（ＭＡ）

Ｑ4　【Ｑ3 いずれかは知っている人】生物多様性について知ったきっかけ（ＭＡ）

Ｑ5　地域における環境保全のための取組みへの参加経験（ＳＡ）

Ｑ6　【Ｑ5ある】参加経験のある分野（ＭＡ）

Ｑ7　環境教育・環境学習活動（座学）への参加経験（ＳＡ）

Ｑ8　【Ｑ7ある】参加経験のある分野（ＭＡ）

Ｑ9　環境教育・環境学習活動（体験型）への参加経験（ＳＡ）

Ｑ10　【Ｑ9ある】参加経験のある分野（ＭＡ）

Ｑ11　環境に対して良いと思うことを伝えたり広めたりしたことがあるか（ＳＡ）

Ｑ12　インターネットによる情報提供の認知度（ＳＡ）

　　Ｑ13　パンフレット、チラシ、広報紙等による情報提供の認知度（ＳＡ）

　　Ｑ14　環境活動のための公共施設の認知度（ＳＡ）

　　Ｑ15　環境問題に関するイベントや交流組織の認知度（ＳＡ）

　　Ｑ16　環境問題に関するキャンペーンの認知度（ＳＡ）

【リサイクル意識】

　　Ｑ17　リサイクル製品の購入意向（ＳＡ）

　　Ｑ18　リサイクル製品へのイメージ（表組ＳＡ）

　　Ｑ19　資源物の分別意識（ＳＡ）

　　Ｑ20　住んでいる地域の分別ルールの認知（ＳＡ）

Ｑ21【Ｑ19分別意識低い、かつ、Ｑ20ルールは認知している】分別しない理由（ＭＡ）

1. 検証方法
2. 仮説1　生物多様性の認知項目（Ｑ3）別に、生物多様性を知ったきっかけ（Ｑ4）を以下

　　　　の3つにカテゴリ分けして集計

・「行政による啓発活動」…府や市町村の広報

・「生物多様性に係る活動の担い手による情報の発信」

　　　…生物多様性関連施設、大学、NPOによる広報

・「メディアを媒体とした情報発信」…メディアによる広報

1. 仮説2　リサイクル製品の購入意向（Ｑ17）別に、リサイクル製品へのイメージ（Ｑ18）

を集計

1. 仮説3　資源物の分別意識（Ｑ19）別に、地域の分別ルールの認知（Ｑ20）を集計

　　　　その上で、分別しない（ことがある）理由を聴取（Ｑ21）